礼拝説教（2019年3月10日）

説教者：中村信哉

皆の益となるために

コリント人への手紙第一 12章4-11節

はじめに

コリント人への手紙第一は、12-14章まで「御霊の賜物」について書かれています。御霊とは聖霊のことですが、先月は12：1-3を通して、聖霊は私たちに信仰を与える方であるということをお話しました。私たちは誰ひとり、自分の力でイエス様を救い主と信じることはできません。聖霊は、聖書の御言葉を通して、私たちの心の中に信仰を与えてくださるのです。私たちも経験があるかもしれません。今までよく分からなかった聖書の言葉が分かるようになった、聖書の言葉が自分に語りかけているように感じるようになった、自分の罪が分かるようになった、イエス様を信じたいと思うようになった、それらはすべて聖霊なる神様の働きです。私たちは誰でも、主なる神様の一方的な恵みによって救われたのです。ですから誰も自分を誇ることはできません。私たちは、すべての栄光を神様に献げるのです。

聖霊なる神様の働きでもう一つ大切なことは、イエス様を信じる私たち一人ひとりに賜物を与え、奉仕の働きへと導いてくださるということです。

1. 御霊とは？

4-6節にはこうあります。**「さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ主です。働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。」**

聖霊なる神様は、御霊とも呼ばれますが、5節では「主」と言い換えられ、6節では「神」と言い換えられています。つまり御霊は、主であり神であるということです。

私たちクリスチャンが信じている神様は、「主」と呼ばれますが、その主なる神様は、父・子・聖霊の三位一体の神であると聖書は教えています。主なる神様は、ただおひとりですが、父・子・聖霊という三つの位格があるというのです。

4-6節の中で、聖霊は「主」とも「神」とも呼ばれています。その意味で、聖霊は主なる神様ご自身であり、三位一体の神の第三位格と言えます。

聖霊は、父なる神様とイエス様と同じように、人格を持つ方です。11節には、**「御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです」**とあります。聖霊は、「みこころ」を持つ方です。聖霊は意志を持ち、人格を持つ方だと言えます

聖霊なる神様は、父なる神様とイエス様からこの地上に遣わされました。そして、この

地上で私たち一人ひとりに御言葉を通して信仰を与え、私たち一人ひとりに賜物を与え、奉仕へと導き、神の国のためにあらゆる働きを行なわれる方なのです。

2. 御霊は、私たちひとりひとりに異なった賜物を分け与えている

聖霊なる神様は、イエス様を信じる私たち一人ひとりに様々な賜物を与えてくださいます。コリント教会は、賜物が豊かな教会でした（1：7）。8-10節には、コリント教会に与えられていた９つの賜物が書かれています。①知恵のことば、②知識のことば、③信仰、④癒しの賜物、⑤奇跡を行う力、⑥預言、⑦霊を見分ける力、⑧種々の異言、⑨異言を解き明かす力、などです。

聖霊が私たちに与えてくださる賜物は、７節にあるように**「御霊の現れ」**として与えられています。つまり聖霊が、父なる神様とイエス様から遣わされて、この地上に確かに存在することを現すために、聖霊の賜物は与えられています。

聖霊は、ペンテコステ以降にこの地上に遣わされました。紀元１世紀の使徒たちの時代、つまり初代教会の時代は、聖霊の賜物が豊かに与えられていました。癒し、奇跡、預言、異言など、不思議な御業が多く行われました。それは、この地上に確かに聖霊が存在すること、確かに父なる神様とイエス様から聖霊がこの地上に遣わされたことを、多くの人に証しするためです。

しかし聖霊によって新約聖書が書かれ、聖霊の賜物による不思議な御業の数々が聖書の中に記録されることによって、私たちは聖書を通して聖霊が確かにこの地上に存在すること、確かに父なる神様とイエス様によって遣わされたことが分かるようになりました。新約聖書がまだ書かれていない時代は、聖霊の賜物による不思議な御業によって聖霊の存在を人々に示すしかなかったのです。そのため、紀元１世紀の使徒たちの時代、初代教会の時代は、聖霊の賜物が豊かに与えられていたのです。

現代の私たちは、新約聖書を通して、聖霊が確かにこの地上におられること、また私たちの内におられることを知っています。私たちの内に信仰が与えられていることが何よりの証拠です。ですから私たちは、悪戯に癒しや奇跡、預言や異言などの不思議な御業を求める必要はありません。私たちはすでに、聖霊が確かにこの地上におられること、私たちの内におられることを確信しているからです。

しかし聖霊は、現代もなお私たち一人ひとりに、教会を建て上げるために、様々な賜物を与えてくださっています。

私たち一人ひとりには、必ず何かの賜物を与えられています。聖霊は、御自身の御心によって、私たち一人ひとりに賜物を分け与えてくださっています。賜物は、聖霊の御心によって与えられるものなので、多く与えられる人もいれば、少なく与えられる人もいます。しかし、すべての賜物を持っている人はいません。私たちは一人ひとり、少しずつ賜物を分け与えられているのです。教会は、すべての賜物を持っている一人の人によって建

て上げられるのではありません。私たち一人ひとりが、分け与えられた賜物を活かして奉仕の働きをすることによって、教会は建て上げられるのです。私たちは互いに補い合わなければ、教会を建て上げることはできないのです。教会は、信徒全員の賜物が活かされてこそ、建て上げられるのです。

私たち一人ひとりは、それぞれ違った賜物を与えられています。それが聖霊の御心です。私たちは、皆が同じ賜物を持つべきだと考える必要はありません。皆が私のようになるべきだ、あの人のようになるべきだと考える必要はありません。皆が違ってよいのです。皆が違うことこそが、聖霊の御心なのです。

3. 賜物を見出す

私たちは一人ひとりには、必ず何かの賜物を与えられています。賜物とは、ギリシヤ語で「カリスマ」と言います。「カリスマ」という言葉は、「恵み」という意味の「カリス」という言葉から生まれました。賜物は、神様からの恵みです。

私たちは、教会を建て上げるために、神様から与えられた自分の賜物は何かを考えなければなりません。それは、自分に与えられた神様からの恵みは何かを考えることでもあります。そして私たちは、教会を建て上げるために、お互いの賜物は何かを考えなければなりません。あの人の賜物は何か、この人の賜物は何かを考えなければなりません。それは、あの人に与えられている神様の恵みは何か、この人に与えられている神様の恵みは何かを考えることでもあります。

私たちは罪の性質を持っているため、お互いの足りない所に目が向きがちです。お互いの出来ていないこと、苦手なこと、弱い部分に目が向きがちです。そして時には、批判的な目を持ったり、裁いたりしてしまいます。

しかし教会を建て上げるためには、お互いに与えられている神様の恵みに目を向けなければなりません。お互いの良い部分、得意なこと、賜物に目を向けなければなりません。そうでなければ、聖霊を悲しませることになるのではないでしょうか。またそうでなければ、それぞれの賜物を活かすことも、教会を建て上げることもできないのではないでしょうか。

しかし中には、なかなか自分の賜物を見出すことができない方もいるかもしれません。しかし、これまでの人生の中で経験した「苦しみの経験」もまた、賜物の一つになるのではないかと思います。パウロはコリント人への手紙第二の中で、このように言っています。**「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。・・・私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます」。**苦しみの経験は、誰かを慰めることができます。同じよ

うな苦しみを経験している人に、その苦しみに耐え抜く力を与えることができるというのです。苦しみを経験している人は、「なぜ自分だけがこんな苦しみに遭うのか？」という思いを抱きます。その苦しみが深刻であればあるほど、その人を孤独にしていきます。そしてその苦しみの原因を問い、時には自分に原因があるのではないかと自分を責めます。その時に、同じような苦しみを経験している人が一人でもいれば、そして自分よりもさらに深刻な苦しみを経験している人が一人でもいれば、「自分は一人じゃない」と思えるはずです。そしてその人を孤独から救えるはずです。そして、洒落たアドバイスなどできなくてもひたすら話を聞いてあげて、「あなたが悪いわけじゃない、あなたのせいじゃない」と声をかけてあげるだけで、どれだけその人は救われるでしょうか。

イエス様を信じる私たちは、神様によってすべてのことが益とされます。私たちの苦しみの経験も、神様によって賜物へと変えられるのではないでしょうか。神様によって用いられる時があるのではないでしょうか。

７節に**「皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです」**とあるように、私たち一人ひとりに与えられている賜物は、教会を建て上げるため、また誰かを助けるため、誰かに仕えるために与えられています。自己実現のためや自分の人生の充実のために与えられているのではありません。教会を建て上げるため、また誰かを助け仕えるために用いられる時に、賜物は活き活きと生かされ、輝くのです。

おわりに

聖霊なる神様は、いまもなお私たち一人ひとりに賜物を与えてくださっています。そして、賜物を用いて奉仕の働きへと導き、私たちを通して教会を建て上げようとしておられます。

私たちは、お互いに与えられている神様の恵みへと目を向けていきましょう。そしてお互いの賜物を見出し、その賜物がより良く活かされるように励まし合っていきましょう。

また自分に与えられている神様の恵みへと目を向けていきましょう。神様によってすべてのことは益とされます。私たちが誰かを助け、誰かを慰め、誰かを救うことができる賜物は何かを考えていきましょう。そしてそれをお互いのために、また教会を建て上げるために用いていきましょう。